

No.577 (改題537号)
2021年
4月13日(火)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4火曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

44 物語

128回に及んだ神戸空襲の犠牲者は8千人以上。このうち、最大規模とされる3月17日の空襲では神戸の西半分が焼き尽くされた。

米軍の「損害評定報告書」によれば、B29が306機、焼夷弾など2328ポンドを投下した。火災目的のナパーム焼夷弾やマグネシウム焼夷弾、飛散破片で殺傷する破砕弾が含まれており、残忍な意図があったことが読み取れる。

この空襲で、神戸中央電話局舎合分局の宿直勤務の16歳から30歳の女性交換手7人が犠牲になった。戦時下で唯一ともいえる「通信を確保せよ」の軍令のもと、何があ

電話局職員空襲殉職慰霊碑

(神戸市中央区八幡通)

ても職務から離れないよう義務付けられていたことが悲劇を生んだ。この空襲で神戸中央電話局兵庫分局の5人の交換手も亡くなっている(柳原天社社に慰霊碑)。

ちなみに、NTT西日本神戸支店の100年誌には「12名殉職」の記載があるだけで不十分。小野八幡神社境内にある慰霊碑は、もともとこの神社の北東500メートルにあった舎合分局に設置されていたが、阪神・淡

路大震災で被災したために移設された。(鍋島【又モ】神戸市中央区八幡通4。神戸市役所から2ブロック東。JR三ノ宮から南へ徒歩5分。



1945年3月17日の神戸空襲で犠牲となった神戸中央電話局舎合分局の女性交換手7人を慰霊する碑

多々の市民団体でつく「こわすな憲法!」のちこくらし!市民デモHYOGO」は3月21日、神戸市内で「春のつどい」を開き、オンライン参加も含め約50人が参加した。このつどいは恒例の新年交流会が新型コロナウイルスの影響で見送られた代わりに開催されたもの。

つどいでは、昨年8月の交流会以降の活動報告に続き、神戸市会に国への意見書提出を求める「辺野古請願署名運動」の経過報告や4月から開始する市民デモHYOGO主催の学習会の提案があり、さらにその後、沖繩、脱原発、コロナ禍と格差・貧困、解散・総選挙などをめぐる運動課題がそれぞれの運動を担っている人々からそれぞれに提起された。

その中の「市民デモ学習会」については、政策力の向上やネットワークの拡大をめざしながら社会を変える力をつけるという大目標を掲げ、沖繩、憲法、貧困・格差、原発の4つのテーマについて、基本的知識や運動論の研究をベースに、4月からそれぞれ6回の学習会を

重ねようというもので、今後2年間にわたって計画される。また、つどいでは「75歳以上医療費窓口負担2割撤回を求める署名にご協力」を「憲法の問題だけでなく、命とくらしを守る運動を強めよう」などの意見が出され、議論と交流を深めた。(中村)



コロナ禍のためにできなかった新年交流会に代わって開かれた「春のつどい」=3月21日、神戸市

「土塊をひとつ動かし物芽いず」と詠んだのは、虚子だったか▼筆を持たされ、つくし摘みに行ったこともあった。卵と同じくはおいしかったが、ハカマとりが厄介だった。「君がため、春の野に出」た時代にさかのぼらずとも、かつては今よりは山野の食材に親しんでいた。春に限れば、つくし、ふきのとう、わらび、ぜんまい、たけのこ...▼当然、それらを育む土についても強い愛着を感じていたのである。野焼きの後に萌え出る草花を待たせてあろう▼

思いを今の政治、社会に転じてみる。モリ、カケ、サクラに限らない汚職の数々、許せないのは当然だが、それらを糾弾する民の力、地の力もいつの間にか劣化していませんか。ただろわか。土塊を動かすエネルギーを弱めてい

な春の目覚めを覚える。「土塊をひとつ動かし物芽いず」と詠んだのは、虚子だったか▼筆を持たされ、つくし摘みに行ったこともあった。卵と同じくはおいしかったが、ハカマとりが厄介だった。「君がため、春の野に出」た時代にさかのぼらずとも、かつては今よりは山野の食材に親しんでいた。春に限れば、つくし、ふきのとう、わらび、ぜんまい、たけのこ...▼当然、それらを育む土についても強い愛着を感じていたのである。野焼きの後に萌え出る草花を待たせてあろう▼

5・3兵庫憲法集会の成功へ
総がかり行動兵庫がプレ集会



集会では木下智史さん(関西大学大学院教授)が「菅政権と改憲の動き」と題した講演を行った=3月26日、神戸市動労会館

「憲法はあなたの命と未来のサポーター」をメインスローガンに、5月3日の憲法記念日に神戸市の東遊園地で開かれる「戦争させない、9条壊すな!5・3兵庫憲法集会」(インターネット配信も併用)と、その日に神戸新聞紙上に掲載する「憲法を活かす1万人意見広告運動・兵庫」を成功させようと、総がかり行動兵庫実行委員会は3月26日、「兵庫憲法集会プレ集会」を神戸市動労会館で開いた。集会では木下智史さん(関西大学大学院法務研究科教授)が「菅政権と改憲の動き」と題した講演を行い、事務局からは意見広告運動の取り組みなどの提起が行われた。

1万人意見広告の成功も

最終集約
4月17日

羽柴修弁護士による主催者あいさつの後、木下さんが講演した。木下さんはまず、なぜ菅政権は改憲にこだわっているのかについて、「安倍改憲」策定の軌跡を追いつつ、前のめりになればなるほど国民が冷めていった構図を明らかにし、野党の結束も含めて、「安倍改憲」を阻止した意義を強調。ただ、「安倍改憲」阻止にとどまるという限界も指摘し

た。さらに、菅政権下の動向として、改憲政変の構図の変化や「新9条」論への対応などに注目を促し、菅政権の危険な兆候として、安倍元首相の影響力とバイデン政権のもとでの日米安保体制強化の動きを指摘した。まとめとして、安倍改憲を許さなかったことへの確信と「ポスト安倍改憲」への警戒を表すとともに、安倍政権下における「壊憲」キャンペーンの悪影響によって、憲法を変えることは進歩だとか考える、日本国憲法の理念への懐疑も出ていると指摘。最後に、改憲への動きと自由の抑圧との運動に警戒を呼びかけた。

集会の最後には事務局から4月17日が最終集約の「1万人意見広告運動」の集中的な取り組みの強化が要請された。

市民デモHYOGO
春のつどいを主催
各活動報告や今後の活動企画の提案など

3月26日に開かれた神戸市会本会議で、政府に対して「辺野古基地建設について沖繩県と更に対話を深めることを求める意見書」が、賛成多数(賛成56、反対12)で採択された。意見書は、自民党、公明党、共産党、立憲民主党、共創・国民

党、つなぐ、共創・国民民主、国民民主党・友愛の7党派と無所属2人の56人の議員による議員提案で、反対したのは日本維新の会と無所属議員2人の12人。

昨年12月、「神戸市への辺野古請願署名実行委員会」(西信夫代表)が1万人余の署名とともに陳情したが、その時は議会の多数の賛同が得られず審査は打ち切りとなった。今年に入り、同実行委員会では、大戦中の沖繩県知事が神戸市須磨区出身の

人余の署名とともに陳情したが、その時は議会の多数の賛同が得られず審査は打ち切りとなった。今年に入り、同実行委員会では、大戦中の沖繩県知事が神戸市須磨区出身の

古立 野辺埋
政府は沖繩県と更に
対話を深める努力を
神戸市会で国への意見書採択

水脈

土筆を「つくし」と読む人も、少なくなっただろう。それどころかつくしを知らない、見たこともないという人も少なからずあるまい▼青空をバックに梅や桜が告げる春の訪れには華やきを感じるが、鉄道線路の土手や川原でつくしが頭をもたげているのは、地味ではあるが、力強さに加えてユーモラスな春の目覚めを覚える。「土塊をひとつ動かし物芽いず」と詠んだのは、虚子だったか▼筆を持たされ、つくし摘みに行ったこともあった。卵と同じくはおいしかったが、ハカマとりが厄介だった。「君がため、春の野に出」た時代にさかのぼらずとも、かつては今よりは山野の食材に親しんでいた。春に限れば、つくし、ふきのとう、わらび、ぜんまい、たけのこ...▼当然、それらを育む土についても強い愛着を感じていたのである。野焼きの後に萌え出る草花を待たせてあろう▼

「あらためて問う！日本の社会保障」 年金問題テーマに第2回学習会

熟年者ユニオンと安心ネット

「あらためて問う！日本の社会保障」をテーマに、安心と笑顔の社会保障ネットワークと熟年者ユニオンが主催する連続学習会の第2回が3月28日、神戸市勤労会館で開催された。コロナ禍で天候の悪い中にもかかわらず33人が参加した。

今回のテーマは「年金改革と将来」。講師の福田義幸さん(年金問題研究会)

研究者・元社会保険事務所職員(はおよそ2時間にわたって講演)、「憲法25条(生存権の保障)」に基づいた年金法の精神が削除され、もはや現在はいかに年金受給額を削減するか」に貴かれた年金政策になつて」と指摘。「2千万円問題」をはじめ、今日の年金問題を詳しく解説した。また、財源問題にも触れ、消費税

の廃止や年金積立金の監視の重要性などを提起し、これからの運動方向も示した。参加者からも質問が多く出て有意義な学習会となった。

社会保障制度の全般が「全世代型社会保障改革」のもと、すべての国民に犠牲を強いている実態を告発し、安心できる生活を目標として闘っていく必要がある。



元社会保険事務所職員の福田義幸さんの講演に学んだ第2回学習会＝3月28日、神戸市

次回(第3回)は5月9日、神戸市勤労会館で「生活保護の現状」について、猪本郁氏(神戸の冬を支える会)を講師に招いて開く。(三木)

【一面からのつづき】と沖繩県が誠実に対話を深めることを切に求めた。その縁で神戸と沖繩の交流が続いていることなど、採択にむけて努力する中も重視し、沖繩県民に寄り添い、基地問題で政府委員会)で採択され、

神戸議会在が辺野古意見書 自公も賛同「政府は県と対話を」

【兵庫】神戸市議会議長(五初め、首相、防衛相など)と市議員は、辺野古の新基地建設をめぐり、市議会(西側)の意見書を、政府に対して提出し、政府が対話を求めると、沖繩県民の歴史を尊重することを求めると、市議会が採択した。意見書は、辺野古の新基地建設をめぐり、市議会(西側)の意見書を、政府に対して提出し、政府が対話を求めると、沖繩県民の歴史を尊重することを求めると、市議会が採択した。

神戸市会での意見書採択を大きく伝える沖繩タイムズの記事(3月28日)

改憲の動きをウォッチング

【自民が党大会】改憲原案の発議・国民投票法改定案の成立めざす。自民党は3月21日、2年ぶりに党大会を開いた。菅首相(総裁)は改憲に関して「わが党の党是」とし、改憲手続きに関する国民投票法改定案に触れて「まずは第一歩として成立を目指す」と意欲を示した。

大会は2021年度運動方針を採択した。昨年の方針は前文の後に「自衛隊の明記」など改憲を大きく位置付けていたが、今年の方針は各種政策の最後に位置付けている。

改憲には「国民の幅広い支持が必要」とし、「衆議院の憲法審査会」の場で建設的かつ活発な議論を行い、憲法改正原案の国会発議を目指す。そのため「憲法改正研究会」などを積極的に展開する」としている。

■戦争法施行5年 日米の軍事一体化加速 敵基地攻撃能力保有兵器の配備急ぐ

戦争法は3月29日施行から5年となった。「戦争する国」づくりが一段と進んでいる。

防衛省は、戦争法に基づき自衛隊が米艦や米軍機などを守る「武器等防護」(米軍防護)は2020年は25回だったと発表。始まった17年は2回、18年が16回、19年14回から急増し日米軍事一体化は急速に深まっている。戦争法により、米軍が攻撃を受ければ自衛隊は武器を使用して反撃できる。

内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当)長、スタンド・オフ・ミサイルとして活用。敵基地攻撃可能

・JSM, JASSM, LRASM—386億円 JSMは射程500キロ、JASSMとLRASMは射程900キロのスタンド・オフ・ミサイル。戦闘機に搭載予定で敵基地攻撃可能

・高速滑空弾—585億円 低空・複雑な軌道で飛行し迎撃困難なミサイル。敵基地攻撃可能

・極超音速誘導弾—148億円 低空を超音速で飛行し迎撃困難なミサイル。敵基地攻撃可能

以下に東京新聞から転用させていた。 ※金額は5年間の予算の累計。研究・開発費なども含む

(中)

あり、約2年にわたる署名運動が実を結ぶ結果となった。意見書採択の二ユースは、地元沖繩の沖繩タイムズや琉球新報でも大きく報じられた。(中村)

みんなで反対運動に取り組もう 75歳以上の医療費窓口2割負担

現役世代の人たちには高齢者の医療費のこと(倍増)である。今回の改悪では医療費窓口負担が2割になるのは年収200万円以上の単身者、及び320万円以上の2人(夫婦)世帯が対象となり、後期高齢者人口の約23%(370万人)が2割負担になる。引き上げ時期は22年10月以降に予定されている。

今回の問題点を挙げてみる。

①19年、内閣府に「全世代型社会保障検討会議」が設置され、安倍前首相が「100年を見越した社会保障」と豪語したのが、検討

を繰り返した部分)から税を引き出し、公費負担を充実させるべきである。社会保障に充てるとした消費税の増税分は何処に行ったのか解明されるべきである。

以上の点から2割負担増で見ていくことは、後期高齢者の窓口負担の平均額が1人当たり現在より3、4万円増えて11・7万円になる。現役世代の各種保険からの後期高齢者医療費への支援金が、厚労省の試算では21年度の6・8兆円から25年には8・1兆円に膨らむとしている。しかし、2割負担増で現

私の主張

「あらためて問う！日本の社会保障」をテーマに、安心と笑顔の社会保障ネットワークと熟年者ユニオンが主催する連続学習会の第2回が3月28日、神戸市勤労会館で開催された。コロナ禍で天候の悪い中にもかかわらず33人が参加した。

今回のテーマは「年金改革と将来」。講師の福田義幸さん(年金問題研究会)

研究者・元社会保険事務所職員(はおよそ2時間にわたって講演)、「憲法25条(生存権の保障)」に基づいた年金法の精神が削除され、もはや現在はいかに年金受給額を削減するか」に貴かれた年金政策になつて」と指摘。「2千万円問題」をはじめ、今日の年金問題を詳しく解説した。また、財源問題にも触れ、消費税

の廃止や年金積立金の監視の重要性などを提起し、これからの運動方向も示した。参加者からも質問が多く出て有意義な学習会となった。

社会保障制度の全般が「全世代型社会保障改革」のもと、すべての国民に犠牲を強いている実態を告発し、安心できる生活を目標として闘っていく必要がある。

現役世代の人たちには高齢者の医療費のこと(倍増)である。今回の改悪では医療費窓口負担が2割になるのは年収200万円以上の単身者、及び320万円以上の2人(夫婦)世帯が対象となり、後期高齢者人口の約23%(370万人)が2割負担になる。引き上げ時期は22年10月以降に予定されている。

今回の問題点を挙げてみる。

①19年、内閣府に「全世代型社会保障検討会議」が設置され、安倍前首相が「100年を見越した社会保障」と豪語したのが、検討

を繰り返した部分)から税を引き出し、公費負担を充実させるべきである。社会保障に充てるとした消費税の増税分は何処に行ったのか解明されるべきである。

以上の点から2割負担増で見ていくことは、後期高齢者の窓口負担の平均額が1人当たり現在より3、4万円増えて11・7万円になる。現役世代の各種保険からの後期高齢者医療費への支援金が、厚労省の試算では21年度の6・8兆円から25年には8・1兆円に膨らむとしている。しかし、2割負担増で現

50回目となった合同慰霊祭では馬場章子さん(89歳)が空襲体験を語った=3月17日、神戸市



第50回神戸空襲犠牲者合同慰霊祭が3月17日、神戸市兵庫区の葉仙寺で執り行われた。昨年につづき、今年もコロナの感染拡大に配慮し、遺族や関係者だけによる慰霊祭となり、31人が参加した。慰霊祭では東灘区の馬場章子さん(89歳)から自身の空襲体験と戦争中の学校や暮らしの話を聞いた。馬場さんは、空襲のあった1945年3月

17日の翌日、瓦礫だらけになった町と遺体の片づけに女学生も動員された経験や語り、その時に三宮の地下道で親とほぐれた小さな子どもたちが食べられないものも無く、まてできない自分を見て、何もできなかった。また、5月11日には当時武庫郡だった東灘区の十二間道路を下校中にB29に追いかけて死に逃げ、何発も爆弾が近くに落とされたのをあとで見たと語った。そして、二度と戦争をしないために今後も戦争の経験を語り伝

えたいと述べた。慰霊祭では、主催の神戸空襲を記録する会が6月6日に予定している第19回戦跡ウォークの訪問先の兵庫区南部の戦跡を紹介する試作ビデオが上映された。1942年の最初の神戸空襲が中央卸売市場で犠牲者が出たこと、45年2月4日の兵庫区南部の軍需工場への爆撃、兵庫区と長田区は米軍の研究した焼夷弾の威力を試す実験場として使われたこと、そして3月17日の大空襲などが紹介されている。(小城)

兵庫区・葉仙寺で 神戸空襲犠牲者合同慰霊祭 神戸空襲を記録する会

「コロナ禍でも声を上げよう! 私たちにも生活がある」を集会スローガンに掲げた「2021兵庫たたかう仲間の集会」が3月13日、神戸市勤労会館・大ホールで開かれ、約120人が参加した。昨年コロナ感染拡大のリスク回避のために中止となったが、今年は感染防止対策を図りながら、デモ行進はなく集会のみ開催となった。

コロナ禍でも声を上げよう! 私たちに生活がある

コロナ禍での職場の状況やたたかいを報告・交流
2021兵庫たたかう仲間の集会

約120人が参加した。昨年コロナ感染拡大のリスク回避のために中止となったが、今年は感染防止対策を図りながら、デモ行進はなく集会のみ開催となった。



コロナ禍でのたたかいなどを報告し合った、2年ぶりに開かれた「兵庫たたかう仲間の集会」=3月13日、神戸市勤労会館

また公共交通機関から自治労臨職評から学童保育職場の問題、県職労から保健所と医療現場のそ

最後に塚原久雄事務局長がまとめを提案し、集会を終了した。(石上)

それからの報告があり、昨年の全校一斉休校など政府のちくはくなコロナ対策による影響や、これまでの行革による病院や保健所の縮小が現場に大きな負担を強いていることなどが報告された。

その後、講演が行われ、全日建連帯関西生コン支部の松村執行委員から同支部の成り立ちと組合幹部の不当逮捕など、異常な組合弾圧の実態が報告された。そして、この問題が労働基本権を脅かす労働者全体の問題であるとして、職場・地域をこえた連帯を呼びかけた。

コロナによる営業不振や賃金削減などの実態が紹介された。続いてコロナ禍の中で闘う仲間たちとして、会社の不当な職場からの排除攻撃と賃金未払いに對して闘うユニオンあしや新浪花分会と、コロナ便乗解雇撤回を求めて闘う武庫川ユニオン新日本分会が、それぞれ闘いの報告を行い、物販などの支援を訴えた。

定期総会とDVD上映会
平和憲法を守る高砂市民の会

豊岡で 松元ヒロライブ開催 3.20 但馬憲法カフェ

憲法を生かす会・但馬も加わる「但馬憲法カフェ」が主催する「松元ヒロライブ」が3月20日、豊岡市民プラザで開かれた。

ライブはコロナ禍で延期されていたもので、2月に開催を決定してから1か月足らずの取り組みだったが、1000人を超える入場者があった。

平和憲法を守る高砂市民の会の第16回定期総会とDVD上映会が3月21日、市内の福祉センターで、コロナ対策のため収容人数を制限して開かれ、20人が参加した。

記念行事として、コロナ対策のため外部からの講師招へいを受けてDVD『映画日本国憲法』(2005年制作)が上映された。この映画は、2006年の本会の発足前のキックオフ集会として呼びかけ人会議で一度上映されたもの。日本国憲法制定の経緯から平和憲法の意義まで、ジャン・ユンカーマン監督が知の巨人12人にインタビューしたもので、憲法とはだれのためのものか、戦争の放棄を誓った前文や第9条をどう考えるのかなど、安倍前首相の改憲策動を継承する菅政権下で、世界に誇るべき日本国憲法を守り活かすことの重要性を改めて考える機会となった。

その後の定期総会では、コロナ禍で活動の停滞を余儀なくされた1年ではあったが、憲法講演会と平和を考える集いの開催、会報の隔月発行、朝ヒラの毎月発行と駆頭配布など、コロナ禍で活動の停滞を余儀なくされた1年ではあったが、憲法講演会と平和を考える集いの開催、会報の隔月発行、朝ヒラの毎月発行と駆頭配布など、



第16回定期総会の前に「映画日本国憲法」のDVDの上映会が行われた=3月21日、高砂市

「憲法くん」を演じた松元ヒロさんは、南米ウルグアイの世界一貧しい大統領ホセ・ムシカ氏の話やパントマイムを演じ、麻生財務大臣の上から目線のものまねでは最後は「なに、落ちがないって?え、落ちは今度の選挙で落とす?アン...」と、一部の勢力の9条改憲の主張に對しては、「憲法を愛するのではなく、政権を代えよう」と呼びかけ、憲法前文を迫力をもって力強く暗唱した。

参加者からは、「笑いの質が下がっている中、久しぶりに大声で笑わせてくれた。」「我々を守ってくれる憲法は絶対に守らねばならない宝、一憲法くん、いつまでも元気でともに過ごしましょう。前に向かっていける力が出てきたなどの感想が寄せられ、風刺の笑いの中にも社会を変えたい原動力を感じることもあった。(島田)

「我々を守ってくれる憲法は絶対に守らねばならない宝、一憲法くん、いつまでも元気でともに過ごしましょう。前に向かっていける力が出てきたなどの感想が寄せられ、風刺の笑いの中にも社会を変えたい原動力を感じることもあった。(島田)

コロナ禍で活動の停滞を余儀なくされた1年ではあったが、憲法講演会と平和を考える集いの開催、会報の隔月発行、朝ヒラの毎月発行と駆頭配布など、

ラピスネット分会のSさんが、度重なる嫌がらせを受けた上司2人に損害賠償請求を求めた裁判の証人尋問が3月19日に終わった。上司による虚偽の勤怠報告とそれによる雇い止め通告、転勤時の大事な資料をシュレッダーで裁断する嫌がらせ、明らかにプライバシーを侵害する調査など、大きな精神的苦痛を受けたSさんは、その苦痛を跳ね返し元気に闘ってきた。



この日の証人尋問は、ユニオン側は同僚でユニオン組合員でもあるYさんと、退職している元同僚2人の計3人、被告側も3人の証人を立てた。原康夫弁護士からも報告があり、所定の成果を上げたとの説明があった。

第2回証人尋問は4月16日である。原告のSさんが証言台に立ち、被告の上司2人の尋問も行われる。引き続き、各地域ユニオンなどからの支援をお願いしたい。

一方、被告側の証言はユニオン側の証言をくつがえすほどのものとは到底言えない内容であった。県内の各地域ユニオンからも支援をいただいた。この日の証人尋問は10時から16時までほぼ1日行われたが、武庫川ユニオン、ユニオンあしや、神戸ワーカーズユニオン、はりまユニオンの仲間が駆けつけてくれ、時間の許す限り裁判の傍聴に参加してくれた。法廷が狭いという、コロナ感染防止対策のための傍聴数制限も続いており、短い時間での交代を続けるなどの傍聴であった。

おんなの目

東日本大震災から10年。震災関連の随筆やテレビ番組を主に、記録や確認として大切な心に響かぬ生があるように個人のそれぞれに違いがあるからと感じている。

私はチェルノブイリ原発事故後から脱原発の市民活動を細々と地域の知人・仲間らとしていた。

2011年3月11日の地震は自然現象として発生したが、東京電力福島第一原発の事故は、これまで生きてきた自分の在り方を根本からひっくり返すような衝撃だった。

それまでと同じ暮らしができないし、しては原発を推進する社会を容認するよう気がして気が持たなくなると落ち込んでいった。今この瞬間にも津波で命も生活も奪われた人たちがいて、フクシマ原発の放射能漏れや更に大きな事故になる可能性があるのに。仕事で乗る通勤電車の中や混んだホームの人々の顔が無表情に見える、私は社会人も学生も目的地へ黙々とずんずん移動する姿の中に居ることに違和感を感じ、息苦しく辛かった。

学校教育の仕事なので年度末を過ぎればすぐに次年度の予定が確定され、ぼんやりしているうちに新年度となり辞職の機会を逃した。何とか1年を乗り越え2012年3月

で区切りをつけた。

その後は農園で畑仕事を始め、地元の高齢者配食や日本語教室のボランティアに参加しながら生活スタイルを変えた。近現代史の読書会「あけびの会」に誘われたのも

て止まったニュースは埼玉の母を見舞った入所施設で知った。経産省前のテント訪問や福井原発周辺で集会。そこに団塊世代ではない若い世代も加わる情景は、3・11の前とは違う未来につながる光のように感じている。

4、5年前に観た渡辺

えり一座の芝居で、ある出来事を通して心の声を伝えながら3・11の体験を語るひと、阪神・淡路大震災の体験を思いだすひと、そして戦争体験を語りだすひと(笑い満載)。

先日観た映画「風の電

話」は、岩手県大槌町で3・11の津波で家族を亡くした17歳の少女が広島から9年後の故郷に向かう旅の途上で、出会う人から様々な死生観をもらい、先に逝った大切な人と語り、「生きる」自分と向き合い、これから生きるための再生の旅を描く。こちらも拭い切れない思いを重ねて次への歩み出しを伝える創作だ。

10年ひと昔というけれど

その頃だ。以前の職場では話しかけなかった政治や原発問題を遠慮なく話し、意見を聞ける場は楽しい。安倍政権が市民の声を無視して通した法案に対する抗議デモや集会に足を運んだ。全国の原発が全

て止まったのか、沖縄戦で知



『関西電力 原発マネースキャンダル』 末田二秀著／南方ブックレット／1000円＋税

「行くカネの流れは絶えずして、しかももとのカネにあらず。よどみに浮かぶがれ束は、袖の下にかき消え、久しくどまりたるためしなし。世にある政治家のわいろ、またかくのごとし」と、昭和の世に某ジャーナリストは「方丈記」の文体で、ある贈収賄事件を弾効している。

関西電力の役員計6人が、福井県高浜町の元助役から2億円近い金品を受領していたとの報道がなされて久しいが、本書はその顛末を具体的に、生々しく炙り出している。

長らく関西電力の不正を追及している活動家を通じて著者から本書が贈られてきた。この書を多くの人に読んでほしい。

本棚

利権構造が生み出した闇の真相

この件を読んで吉本新喜劇の池乃めだかのギャグが重なる。大きな男に立ち向かったが、力かならず倒された小さなめだか氏が発する「今日のところはこれ位にしてやる！」だ。新喜劇では笑えるが、これは笑えない。

金品受領の状況も克明に暴露されるが、報道でも明らかになったように、江戸時代か？と錯覚するような事例も紹介される。現金、商品券等の他に小判も渡され、「菓子折りの下に金貨が入っていた」という件は、「越後屋」お

ぬしも悪者のう」という時代劇の悪奉行と悪徳商人の世界だ。原子力ムラと呼ばれる利権集団や、バックマージンが関電幹部に還流している実態について、あらためて怒りが湧いてくる。

生きる 島田叡

戦中最後の沖縄県知事

事としてどう行動したのか、この映画が紐解いていく。

島田が沖縄県知事の辞令を受けたのは1945年1月だった。まもなくアメリカ軍が上陸し地上戦に突入することほはや明らかである。第32軍牛島司令官により「軍官民共死」の一掃作戦が推進される。60万県民を総決起させて総力戦を推進するという重い任務が県知事に課せられていた。

この時期に辞令を受けることは、まさに死を覚悟して沖縄に赴任することになる。島田は「生きる」

シネマランド

沖縄の人々に命ごと向き合った神戸市出身の知事

監督は佐古忠彦。TB Sのドキュメンタリー・プロデューサーとして、虐げられた人や反骨の人

とである。家族は必死に止めたという。しかし島田は、「これが若い者なら行かなければならぬ」「俺は死にとうないから」とはよう言わんと受諾の決意を変えなかった。少年時代から野球に打ち込み、中学、高校、最後は東京帝大の野球部で活躍した経歴に、一本筋を通す彼の生き方が見える気がする。

映画には多くの証言者が登場する。現存する資料が極端に少ない島田の言動を知る唯一の手段である。その後、大田・元県知事を始め、そのうち4人の方がすでに亡くなっている。証言者の多くが、島田に「生きる」



命令のもとで住民に生きることを説くのは、軍の命令への拒絶である。島田は沖縄の人々に向き合う姿勢を最後まで崩すことはなかった。

佐古監督のメッセージにこうある。「その判断が誤っていたとき、また、それを改める機会を逃したとき、最もその影響を受け危険にさらされるのは国民である。新型コロナウィルスの感染拡大という思いもよらぬ事態に見舞われた2020年、リーダーたちの決断一つで、私たちはいかようにもどこにでも連れて行かれることを改めて意識した」

現日本国リーダーの危うさを改めて思う。

島田の出身地は神戸市須磨区である。この3月下旬に神戸市議会で、「辺野古基地建設について沖縄県と更に対話を深めることを求める意見書」が採択された。その文面に島田の名がある。沖縄の人々に命ごと向き合った島田を生んだ神戸として、国策が沖縄を翻弄する辺野古の現状に、黙っているわけにはいかない。

監督 佐古忠彦 / 2021年 / 日本 / 118分